

## 令和元年度年度萬鉄五郎記念美術館収蔵美術品等審査委員会会議録

### 1 開催日時

令和2年2月21日（金） 午前11時～午前11時30分

### 2 開催場所

花巻市東和町土沢5区135番地 八丁土蔵

### 3 出席者

#### (1) 出席委員4名

市川清志委員長、中村光紀副委員長、藁谷収委員、藤原睦委員

#### (2) 欠席委員1名

斎藤純委員

事務局2名（萬鉄五郎記念美術館）

平澤主任専門員、滝浦上席主査

### 4 委員会の概要

#### (1) 辞令書の交付

#### (2) 開会 滝浦上席主査

#### (3) あいさつ 市川委員長

#### (4) 委員および出席職員の紹介

### 議 事

萬鉄五郎作の購入について

平澤主任専門員、滝浦上席主査：鑑定結果の報告、当該作品について説明

（藁谷収委員）

この作品は購入後どのような位置づけで展示になる予定でしょうか。

（平澤主任専門員）

今お話ししたように萬にとっては非常に、ある種、起点となった大正10年の作品ですので、常設の中で解説をつけながらその価値を付加して展示していきたいと考えております。

（藁谷収委員）

隣に関連づけたものを展示するとか。

(平澤主任専門員)

版画とかですね、それも考えております。

(藁谷収委員)

立体的なものを表現するときには一つの目的があったと思うんですけども、そういうものから離れていって、むしろ平面的にどう考えていくかということのを非常に研究していたと思うんですよ。体をよじるというのは、例えばミケランジェロなんかは、よじることの肢体を強く表現するんですけど。あくまでも平面的な、もしかすると南面的な部分が色濃く出ていると思います。

(平澤主任専門員)

その通りだと思います。萬はマティスが好きだったので、マティス的な単純化したフォルムというのはあると思います。マティスにないのは深みだと彼は言っているんですよ。マティスにない深みをどうやって表そうかというのを試しているところはあると、軽さでなく日本人ならではの水墨なんかには単純な線でもある深さのようなものをどうやって洋画で表そうかという、そういうところが見て取れる作品だと思います。

(中村光紀副委員長)

作品としてはね、小さいですけど完成度が高いです。単純化して簡単に描いているようでちゃんと絵になっている。萬にとって萬の力量というものがよく分かる気がしますね。そして小さいから習作だなと思うんですけども、サインが入っているということは、完成されているということの現れだと思います。

うちの館にとっては不可欠な作品です。

(藁谷収委員)

額装はどこでされたんですか。

(平澤主任専門員)

画廊からきたときからこの状態です。後ろは封がしてあります。この字はおそらく息子さん(萬鉄五郎長男・萬博輔)の字だと思います。名古屋の栄デパートで展覧会をやっています、愛知から結構作品が出てくることがあります。

(市川清志委員長)

板自体が曲がっているということですね。

(平澤主任専門員)

そうですね。実際は板にただ貼っている。板自体が経年で曲がってしまった、初めはまっすぐだったけど一枚板を使っているから。

(市川清志委員長)

そうしますとこの委員会ではですね、この鑑定いただいた評価の皆さまの結果を基に評価額や購入が妥当なのかということを決めることなのですが、どちらも妥当だということの評価いただくことでよろしいでしょうか。

よろしければ会議はこれで終了ということにしたいと思います。

⑤閉 会 滝浦上席主査 11時28分閉会